

## 進行期子宮体癌におけるデュルバルマブ併用術前化学療法による免疫応答誘導と TLS(Tertiary Lymphoid Structures)リモデリングの解析： トランスレーショナルケース

### 1. 研究の対象

主に対象となる患者さん：当院で2024年1月から2025年7月までの間に、進行期子宮体癌に対してデュルバルマブを含む化学療法後に手術治療を行なった患者さん。

### 2. 研究目的・方法

進行期子宮体癌におけるデュルバルマブ併用化学療法による免疫応答誘導と TLS リモデリングを解析し、conversion surgeryの実現可能性を検証することが研究の目的です。  
研究の対象となる3人の患者さんの情報・試料(検体)を集積することを想定しています。年齢・BMI・合併症背景・化学療法情報(方法・効果・副作用)・腫瘍情報(Stage・組織型など)を診療録より収集します。  
また、保存された腫瘍組織を用い、腫瘍内の免疫状態について免疫組織化学染色を行ったり、免疫関連蛋白の発現について次世代シーケンサーを用いて解析したりします。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、手術関連因子、病理組織結果、副作用などの発生状況、生存や再発の有無、カルテ番号 等

組織検体：当院または共同研究機関で手術または検査後に保管されているパラフィンブロック検体

利用又は提供を開始する予定日：所属機関の長の研究実施許可日～2027年3月31日

### 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター婦人科

研究責任者：北井美穂

大阪市中央区大手前3丁目1番69号

06-6945-1181